

第4回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 理事会

日 時：平成21年6月27日（土）午前8時～午前9時

場 所：名古屋国際会議場1号館3階135

出席者：市村（理事長），飯野，小河原，加我，工藤，黒野，阪上，坂田，佐野，鈴木，泰地，内藤，長井，春名，氷見，福永，細井，山中（理事），大越，安岡（監事），川城，田中（顧問），安達，香山，櫻井，佐々木，深美（幹事）（50音順，敬称略）

【はじめに】

・理事長ごあいさつ

市村恵一理事長より，本大会開催にあたって挨拶があった。本大会の趣旨について，耳鼻咽喉科と小児科の関係について，小児耳鼻咽喉科の専門医について説明があった。小児耳鼻咽喉科診療指針の作成協力に対し，謝意が述べられた。

・内藤健晴 第4回会大会会長あいさつ

第4回大会への協力・支援にたいして謝意が述べられた。今回のテーマは，「小児耳鼻咽喉科学会を日本，世界での視点から見直す」である。日本からは川城先生，外国からはクライスデール先生に歴史的背景を講演していただく予定である。耳鼻咽喉科医としても，小児を見るにあたっての最近のトピックスや小児科の知識を勉強する企画をたてたとの説明があった。会期中の協力が求められた。

【議題】

開催にあたって，市村理事長より，出席者数及び委任状総数から会が成立したことが述べられた。

（1）平成20年度事業報告（庶務担当：泰地理事）

1. 第3回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成20年6月21日～22日の2日間，城山観光ホテル（鹿児島県）において黒野祐一会長のもとに開催した。
2. 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成21年6月27日～28日の2日間，名古屋国際会議場において内藤健晴会長のもとに開催することを準備した。
3. 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成22年に札幌医科大学耳鼻咽喉科，氷見徹夫会長のもとに開催することが決定した。
4. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第29巻2号，3号および第30巻1号を刊行した。
5. 理事会および評議員会を平成20年6月20日に開催した。
6. 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。

7. 「小児耳鼻咽喉科の担当領域」と「小児耳鼻咽喉科医の到達目標」を作成し、日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第29巻3号に掲載した。
8. 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改定版作成作業に協力し、小児急性中耳炎ガイドライン2009年版が2009年1月5日に公表された。
9. 会則の改定案を作成し承認を得た。
10. 「小児耳鼻咽喉科診療指針」の発刊を準備した。
11. 平成21年6月15日現在会員数は以下のとおり
名誉会員 2名
正会員 825名(20年度入会者 84名)
団体会員 11名
購読会員 4名
寄贈会員 6名

(2) 平成20年決算報告(会計担当:小河原理事)

小河原会計担当理事より、決算報告の説明があった。会誌発行費の増加など、収入・支出の増減について説明があった。

(3) 会計監査報告(大越監事)

大越監事より、平成21年5月26日に小宮山印刷において会計監査が行われた結果、適正であったことが報告された。

以上決算が承認された。

(4) 平成21年度事業計画(案)(庶務担当:泰地理事)

1. 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成21年6月27日～28日の2日間、名古屋国際会議場において内藤健晴会長のもとに開催する。
2. 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成22年6月26日～27日の2日間、札幌医科大学耳鼻咽喉科、氷見徹夫会長のもとに開催に向けて準備する。会場は札幌コンベンションセンターである。
3. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第30巻2号、3号および第31巻1号を刊行する。
4. 理事会および評議員会を平成21年6月27日に開催する。
5. 定款施行細則を一部変更する。総会ならびに学術講演会に関する内規を設ける。
6. 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席する。
7. 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力する。
8. ホームページの維持・充実をはかる。
9. 「小児耳鼻咽喉科診療指針」の出版。

(5) 平成21年度予算(案) (会計担当: 小河原理事)

平成21年度予算案について説明があった。ホームページ担当の飯野理事より、今後ホームページの更新回数の増加や、新たに小児病院とのリンクなどもあり経費が増えるので、予算計上していただきたいとの要望があった。小河原理事より、現在年4回請求がきていることや、今後の増加については予備費からの支出を考えているとの説明があった。

以上、承認された。

(6) 学会誌編集報告・投稿規程 (編集担当: 工藤理事)

会誌が無事発行されたこと、投稿数が増加したことが報告された。

投稿規程の次に編集委員長からのたよりを掲載したことの説明があった。投稿数が増えたことで、参考文献の書き方を「科学情報流通技術基準」(SIST)に従ってゆくことが提案された。ただし、共著は3名までそのほかは“他”とする予定であるが、著者の数については、編集委員会に一任されることが了承された。

編集委員の欠員が生じた場合は、古川先生(順天堂大)を編集委員とすることが提案され、承認された。

専門家などの学会外へ原稿を依頼した場合に、2000円程度の図書券を謝礼としたいとの提案があり、承認された。

会誌のページ番号について質問があり、工藤理事より、現在は通し番号になっているとの回答があった。

(7) 各種委員会報告

1. ホームページ (ホームページ担当: 飯野理事)

ホームページの更新について説明があった。各小児病院とのリンクを今年度目標としてやっていきたいとの説明があった。

2. 用語委員会 (用語担当: 細井理事)

日本耳鼻咽喉科学会より3年前に用語の依頼があった件について、最終的には提出の依頼がなかったため、当学会の用語委員会の意見は日耳鼻の用語には反映されていないと説明があった。

3. 保険医療 (保険医療担当: 佐野理事)

喉頭気管分離術の点数掲載を継続して申請している。他科との関連で、今後、嚥下について検討したいとの説明があった。

(8) 第6回総会・学術講演会の会長選出の件

市村理事長より、小児科より選出することを検討していたが候補がでなかったため、自治医大さいたま医療センターの飯野ゆき子教授が推薦され、承認された。飯野理事より、会期については検討中であること、場所は大宮ソニックシティー（さいたま市）を予定としていることが説明された。今後の協力が求められた。

(9) 評議員の推薦

新評議員として、

宇佐美真一先生（信州大学医学部耳鼻咽喉科教授）

愛場庸雅先生（大阪市立総合医療センター耳鼻咽喉科部長）

今井丈英先生（日本医科大学附属多摩永山病院小児科）

三輪高喜先生（金沢医科大学耳鼻咽喉科教授）

以上4名が推薦され、承認された。

今後さらに推薦がもとめられた。

(10) 会則改定に関する件（泰地理事）

・細則第1条（会費，入会金）に5項を追加することが説明された。

内容は留学中の休会について。

休会中に共同になれるかとの質問があり、筆頭演者は不可だが、共同演者は可能と改訂することです承された。

さかのぼっての申請はできないかとの質問について、臨機応変に対応するとの説明があった。

以上、承認された。

・総会ならびに学術講演会に関する内規について説明があり、承認された。

事務局と学会の業務分担などが明記されている。意見があれば理事長へもらいたい。

・交通費の支給規則について説明があり、了解された。今後さらに、ご意見を求めたい。

(11) 第5回総会・学術講演会，氷見徹夫会長ご挨拶

企画については現在検討中との報告があった。小児耳鼻咽喉科の専門性と小児科との連携をもちこみたいと説明され、今後の協力がもとめられた。

(12) その他

・加我理事より、国際小児耳鼻咽喉科学会との連携について説明があり、国際誌に当会の歴史を掲載したとの説明があった。

・2財団法人より抄録集・プログラムのデータベースへの収録依頼があった件について説明があった。抄録集についてはチェックがされていないので、個人情報について問題があるのではとの質問があり、個人情報保護について今後周知する必要があるとの見解が述べられた。演題選択にあたって委員会をつくることを検討してはどうか、演題募集の段階できちんと個人情報保護のための規程を作る必要があるとの提案があった。今後この問題を検討したうえで、資料提供について協力を考えることとなった。

・人工内耳の問題について、10年の保証期間がすぎて保証問題でクレームがでるようになってきており、学会としての検討が必要ではないかとの意見があった。人工内耳入れ替え等の保険適応などについて、今後委員会をもうけて考えてゆくことが検討されることとなった。

理事長：市村恵一

庶務担当：泰地秀信

幹事：佐々木祐佳子

香山智佳子

安達のどか

文責：深美 悟

第4回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 評議員会

日 時：平成21年6月27日（土）午前9時～午前9時50分

場 所：名古屋国際会議場1号館3階131

出席者：市村（理事長），飯野，小河原，加我，工藤，黒野，阪上，坂田，佐野，鈴木，鹿，泰地，内藤，長井，春名，氷見，福永，細井，山中（理事），大越，安岡（監事），川城，田中（顧問），井口，王，熊本，小林，後藤，阪本，笹村，佐藤，杉内，鈴木（賢），鈴木（雅），寺本，中川，中島，仲野，増田，益田，松谷，望月（高），望月（博），守本，家根，由良（評議員），安達，香山，櫻井，佐々木，深美（幹事）
（50音順，敬称略）

【はじめに】

・市村恵一理事長ごあいさつ

市村恵一理事長より，本大会開催にあたって挨拶が述べられた。本大会の趣旨について，耳鼻咽喉科と小児科の関係，小児耳鼻咽喉科の専門医について説明があった。小児耳鼻咽喉科診療指針の作成協力に対し，謝意が述べられた。今後理事をめざしてもらいたいとの挨拶があった。

・内藤健晴先生ごあいさつ

第4回会長 内藤先生より，協力・支援に対して謝意が述べられた。

今回のテーマ「小児耳鼻咽喉科学会を日本，世界での視点から見直す」で，日本からは川城先生，外国からはクライスデール先生にカナダでの歴史的背景を講演していただく予定である。また，耳鼻咽喉科医として小児を見るにあたっての最近のトピックスや，小児科の知識を勉強する企画をたてたとの説明があり，会期中の協力が求められた。

【議題】

開始にあたって，市村理事長より，出席者数，委任状総数から会が成立していることがのべられた。

（1）平成20年度事業報告（庶務：泰地）

1. 第3回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成20年6月21日～22日の2日間，城山観光ホテル（鹿児島県）において黒野祐一会長のもとに開催した。

2. 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成21年6月27日～28日の2日間、名古屋国際会議場において内藤健晴会長のもとに開催することを準備した。
3. 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成22年に札幌医科大学耳鼻咽喉科、氷見徹夫会長のもとに開催することが決定した。
4. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第29巻2号、3号および第30巻1号を刊行した。
5. 理事会および評議員会を平成20年6月20日に開催した。
6. 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。
7. 「小児耳鼻咽喉科の担当領域」と「小児耳鼻咽喉科医の到達目標」を作成し、日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第29巻3号に掲載した。
8. 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改定版作成作業に協力し、小児急性中耳炎ガイドライン2009年版が2009年1月5日に公表された。
9. 会則の改定案を作成し承認を得た。
10. 「小児耳鼻咽喉科診療指針」の発刊を準備した。
11. 平成21年6月15日現在会員数は以下のとおり

名誉会員 2名

正会員 825名（20年度入会者 84名）

団体会員 11名

購読会員 4名

寄贈会員 6名

（2）平成20年決算報告（会計担当：小河原理事）

小河原会計担当理事より、決算報告、資産の説明があった。

（3）会計監査報告（大越監事）

大越監事より、平成21年5月26日に小宮山印刷において監査が行われ、適正であったことが報告された。

以上決算が承認された。

（4）平成21年事業計画（案）（庶務担当：泰地理事）

1. 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成21年6月27日～28日の2日間、名古屋国際会議場において内藤健晴会長のもとに開催する。
2. 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成22年6月26日～27日の2日間、札幌医科大学耳鼻咽喉科、氷見徹夫会長のもとに開催に向けて準備する。会場は札幌コンベンションセンターである。
3. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第30巻2号、3号および第31巻1号を刊行する。

4. 理事会および評議員会を平成21年6月27日に開催する。
5. 定款施行細則を一部変更する。総会ならびに学術講演会に関する内規を設ける。
6. 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席する。
7. 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力する。
8. ホームページの維持・充実をはかる。
9. 「小児耳鼻咽喉科診療指針」の出版。

(5) 平成21年度予算（案）（会計担当：小河原理事）

平成21年度予算案について説明があった。今回、新たに小児病院とのリンクなどもありホームページの経費が増えることなどが説明された。

以上、承認された。

(6) 学会誌編集報告・投稿規程（編集担当：工藤理事）

会誌が無事発行されたこと、投稿数が増えたことなどが説明された。

投稿規程の次に編集委員長からのたよりを掲載した経緯の説明があった。投稿数が増えたことで、来年度から参考文献の書き方を「科学情報流通技術基準」（SIST）に従ってゆくことが提案された。30巻3号で周知する予定である。共著は3名まで、そのほかは“他”とする予定であるが、著者の数については編集委員会に一任されることが了承された。

(7) 各種委員会報告

1. ホームページ（ホームページ担当：飯野理事）

更新回数の増加や、小児病院とのリンクを今年度目標としてやっていきたいとの説明があった。

2. 用語委員会（用語委員担当：細井理事）

日本耳鼻咽喉科学会より用語の依頼が3年前にあった件は、最終的な提出依頼がなく、当学会の用語は日本耳鼻咽喉科学会の用語集には反映されていないとの説明があった。

3. 保険医療（保険医療担当：佐野理事）

次回の改定に向けて、他科との関連で、特に嚥下について検討してゆく予定である。また手術は、喉頭気管分離術の点数掲載を継続して申請している。

(8) 第6回総会・学術講演会の会長選出の件

市村理事長より、自治医大さいたま医療センターの飯野ゆき子教授が推薦され、理事会においても承認されたことが説明され、承認された。

飯野教授より、会期については検討中であること、場所はさいたま市の大宮ソニックシティーを予定していることなどが述べられた。今後の協力が求められた。

(9) 評議員の推薦

新評議員として、

宇佐美真一先生（信州大学医学部耳鼻咽喉科教授）

愛場庸雅先生（大阪市立総合医療センター耳鼻咽喉科部長）

今井丈英先生（日本医科大学附属多摩永山病院小児科講師）

三輪高喜先生（金沢医科大学耳鼻咽喉科教授）

以上4名が推薦され、承認された。

今村栄一顧問より辞任の申し出があり、承認されたことが報告された。

(10) 会則改定（庶務担当：泰地理事）

・細則第1条（会費，入会金）に5項を追加することが説明された。

留学中の休会のシステムについて説明があった。休会中に共同演者になれるかとの質問があり、筆頭演者は不可だが、共同演者は可能と説明された。

以上承認された。

・総会ならびに学術講演会に関する内規について説明があり、承認された。

事務局と学会の業務分担などが明記されている。意見があれば理事長へもらいたい。

・交通費の支給規則について説明があった。

(11) 第5回総会・学術講演会，氷見徹夫会長ご挨拶

企画について、検討中との報告があった。平成22年6月に開催予定である。専門性と小児科との連携をもちこみたいと述べられ、協力がもとめられた。

(12) その他

・加我理事より、国際小児耳鼻科との連携について説明があり、国際誌に当会の歴史を掲載した旨、説明があった。

・市村理事長より、日台耳鼻科学会に参加依頼があったと説明された。

・人工内耳の問題について

10年の保証期間がすぎて、保証問題でクレームがでてきている。今後学会としての検討が必要と考えられる。入れ替え等の保険適応などについて、委員会を設けて考えてゆくと説明された。

・小児科への広報および禁煙の啓発活動について

評議員より「小児耳鼻咽喉科学会は小児科への広報が足りない」とことと「小児科関連学会では禁煙宣言を行っており、小児耳鼻咽喉科学会も禁煙についての啓発活動を行うべき」との意見が出され、理事長は「いずれも重要な問題のため、具体的な方法について検討する」と回答された。また、小児科への広報については、小児科の学会誌に学会会告を掲載するなどが考えられることが示された。

理事長：市村恵一

庶務担当：泰地秀信

幹事：佐々木祐佳子

香山智佳子

安達のどか

文責：深美 悟